

研究課題番号	4-2003
研究課題名	植物相の定量的解析による世界自然遺産候補地西表島の管理基盤情報 の確立
研究代表者名（所属）	内貴章世（琉球大学）
研究期間	2020年度～2022年度
研究キーワード	西表島 国立公園 植物相 フロア 絶滅危惧種 外来種

研究概要と成果

目的

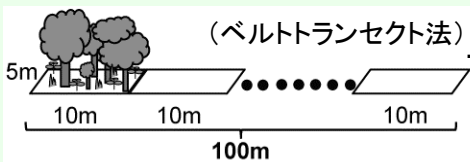
「どこにどんな植物が分布するのか」という植物相研究が遅れていた沖縄県西表島において、全島を対象として絶滅危惧種や外来種を含んだ全維管束植物種の最新の分布情報を整備する

方法・・・以下の2つの野外調査
を1km²ごとに行う（標本、DNA
解析試料も作成）

○踏査による分布調査

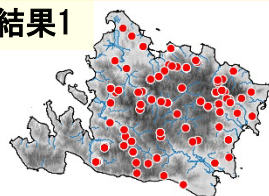


○網羅的植生調査（下図）

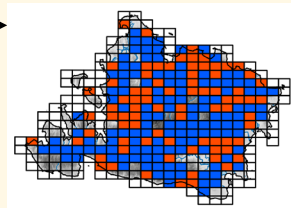


プロット内に出現した植物を全て記録

結果1



全種の分布図の作成



プロットに出現した（赤）、
しなかった（青）を全種に
ついて記録し、重ね合わせ

1, 375種の維管束植物を確認

・ 自生種 1, 109種

・ 外来種 266種

（このうち在来種3種、外来種
59種は本研究で発見）



日本新産のシダ、ムクゲコケシノブ
(A)、西表新産のホソバノキミズ (B)

結果2

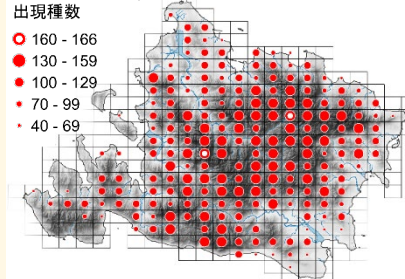
絶滅危惧植物

分布情報と環境情報（気候・地
形）から生態ニッチモデリング
解析を行い、11種について良好
な潜在分布地の予測ができた。
（非公開内容のため、図や詳細
は省略）

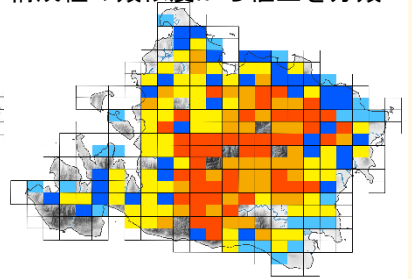
緊急対策外来植物

アメリカハマグルマの全島調査
を行い、今後分布拡大の可能性
がある場所を予測した。

構成種の類似度から植生を分類



→島の北東部、中南部で植物
の種多様性が高かった



→西表島の植生は大きく
5タイプに分類された

環境政策等への貢献

- ・ 国立公園内での効果的な重点的保護区の選定の根拠資料として役立つ。
- ・ 今後の植生モニタリングの起点データとして活用できる。
- ・ 種レベルでの保全が必要な絶滅危惧種の選定や、絶滅危惧ランクの変更の検討資料となる。
- ・ 緊急対策外来種に関して、優先的に対策する地域を選定する際の資料として活用できる。
- ・ 本研究の調査ルートが現在問題となっている野生化したヤギ（ノヤギ）調査ルートとしても使用できる（すでに活用中）。